オーディオ資料室収載

GLANZ MH-9Bt 修理経過

1.現象

LINN LP-12 の再構成(17)で報告したとおり LNN LP-12 のフォノケーブルのグレードアップに合わせて、GLANZ のアームのアーム取り付け板へのぐらつきも修正してもらい、総合的な調整を行いました。

LINN LP-12 の再構成(17)の報告のとおり、音質的には大きな向上が認められましたが、アナログマジックの測定においてワフフラッターの測定において不規則な波の発生が認められ、アジマスの調整がとれないことが判明しました。目視でもカートリッジが左側（ターンテーブル側）に傾いていることが認められましたので、シュル締め付けチャックを緩めて調整しようとしたが、右側への回転は目いっぱいであり、アームの軸受け上に水準器を載せたところアーム本体が左側へ傾斜の疑いが出てきました。

2.原因調査

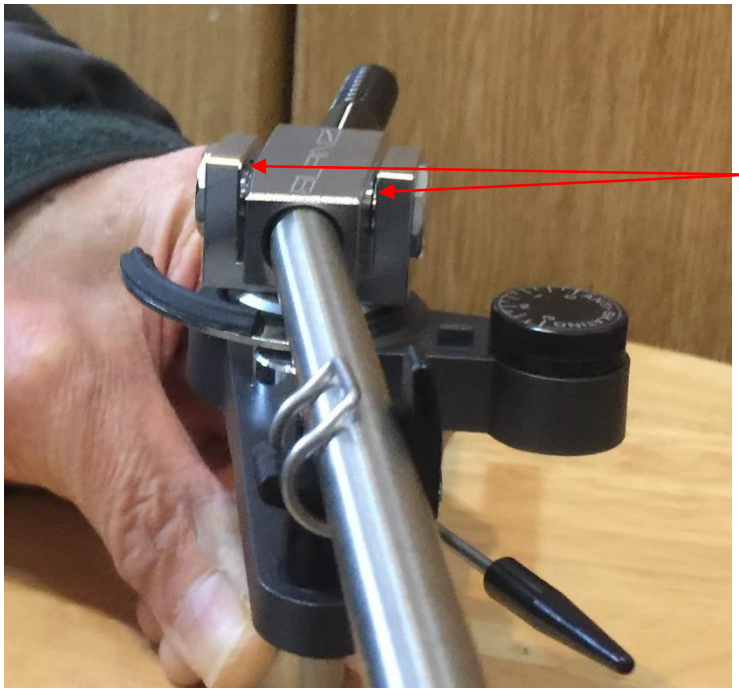
これらのことを LINN ショップに伝え、調査を依頼しましたところ、下記のような結果となりました。

・カートリッジのシェルへの取り付けは問題なし
・アーム取り付け板の水平は問題なし
・アームベースのアーム取り付け板への取り付けは問題なし
・アームをアームベースから引き抜いてみたところアームの水平が取れておらず、目視および指の感触でも左右の段差の違いがある

そこで、LINN ショップとダブルチェックしましたところ、下図のようになっていることが分りました。

これらのことを販売店に伝え、販売店でも確認の上、メーカーに戻して修理を依頼することになりました。

上記のことは、これまでに気が付くべきことでしたが、下記のような事情で分かりにくかったのかもしれません。



左右で傾斜があり
左が低い（現象 A）

シェル毎傾斜
アームが捻じれて
いないか？
（現象 B）

3.メーカーへの依頼事項

メーカーには、上記知見の確認とともに、要すれば、修理を、修理不可能な場合は交換を依頼しました。

4.メーカーの見解および対応

上記現象 A の状況については、詳細説明がなく、製造時には問題はなかったが、アーム軸受は、再度分解、組立、調整を行ったそうです。目視では、傾きは直っているようですので、当初の組み立てに問題があったのかもしれません。

上記現象 B については、下記の回答がありました。

・ヘッドシェルの傾きはユーザー側で調整できるようにしてある。
・そのためアームパイプ下側のネジは必要以上に締め付けていない。
・ヘッドシェルを手で持ち、傾きを回せば修正できる。
・取り付け図は取り扱い説明書 5 項に記載してある。

・説明が十分でなかったので、判りやすいマニュアルを用意する。
上記について取り扱い説明書を点検したところ、回答のあったように下記の説明がありました。
5.ヘッドシェルの取り付け
②前から見て傾いていたら、着脱ロックナット後ろの下図ネジを緩め。シェルの傾きを修正して、再びネジを締めてください。

なお、付属品には上記ネジの調整に必要な特殊な微小プラスドライバーは付属していませんでしたし、取り扱い説明書のリストにもありませんでした。
補足説明として、ヘッドシェル取付部分のチャッキング部分の固定用小型ネジはアームパイプ内部にスプリングを挟んで、強い目に固定されており、固めではなく、緩めでもなく、ちょうど良い強さに調整してあるとの事です。
アームパイプ下部の固定ネジは頻繁に緩めたり締めたりを繰り返しますとネジの破損につながる恐れがあるので、作業に際しては十分注意が必要とのことです。
なお、ヘッドシェルを右回転または左回転に強い目に回せば、わずかに回転する程度まで締めこんであるそうです。回転のやり方は、左手の親指、人差し指、中指を使ってアームパイプを固定して、右手でヘッドシェルの付け根部分を持ち、回すのではなく回転方向にわずか力を入れる程度で、微調整が出来るとのことで、ちょうど良い位置になるには数回繰り返す必要があるそうです。
今回、ヘッドシェル取付チャッキング部分の、アジマス角調整機構は 角度が移動していたので、正しい位置へ移動調整したとのことです。
なお、以上の回答は、メーカーが文書の回答を出すことをやっておらず、販売店の電話などによる聞き取りの仲介を含んでいます。
以上から、当初からヘッドシェルの向きが正常になるような位置になっていなかったか、ネジが緩かったので、アーム取り付けや使用過程で着脱ロックナットとヘッドシェルの取り付け状態が変わってきたものと推察されます。

5.アーム取り付け後の確認

アームをアームベースに取り付けたところ、今度は若干右側に傾いていましたので、取り扱い説明書に従って調整しました。

6.メーカーへの今後の要望事項

以上からメーカーへの要望事項を整理しました。

・取り扱い説明書の注意事項を含めた分かりやすい説明

・出荷時は適切なヘッドシェルの向きになるように着脱ロックナットを調整し、固定ネジをロックすること。

・着脱ロックナットの固定ネジはアームの下側にあり、視認性と作業性が悪いので、固定ネジを上側もしくは右側面に移動するよう設計変更できないか。

・ユーザー側での作業が必要なら、固定ネジ用プラスドライバーを付属すること。

・ユーザー側からのフェードバックについては文書で回答を出すこと。

以上